

第131号

2021.9 発行

総研大 NEWSLETTER



トピックス

- ◆ 先端学術院先端学術専攻 20 コース体制（仮称）特設 Web サイト開設
- ◆ 「総合研究大学院大学（SOKENDAI）特別研究員」制度スタート
- ◆ 遺伝学専攻 オンライン大学院一日体験会
- ◆ 宇宙科学専攻 専攻説明会
- ◆ JSPS サマー・プログラム 2021 オリエンテーションを初のオンライン
- ◆ 総合研究大学院大学職員が第 63 次南極観測隊員に決定

受賞情報

プレスリリース情報

研究助成学生の研究紹介

メディア等出演・掲載情報

イベント情報

Topics



先端学術院先端学術専攻 20 コース体制 (仮称) 特設 Web サイト開設

本学は、現在の教育組織を見直し、先端学術院先端学術専攻（仮称）のもとに 20 コースを位置付ける体制へ移行する検討を開始しました。

移行は 2023 年 4 月を予定していますが、それに先立ち、特設 Web サイトを開設しました。

今後、随時情報を更新していく予定です。

URL: <https://next20.soken.ac.jp>



【広報社会連携係】

SOKENDAI
国立大学法人
総合研究大学院大学
先端学術院先端学術専攻
20コース体制 (仮称)

HOME
学長メッセージ
入試について
お問い合わせ

f y

SOKENDAI
Next 20

先端学術院先端学術専攻
20コース体制
(仮称)
2023年4月移行予定 (設置構想中)

※設置計画は予定であり、内容に変更が生じる場合があります。

総研大は
先端学術院先端学術専攻(仮称)
20コース体制へ
2023年4月に移行する検討を
開始しました。

先端学術院先端学術専攻(仮称)20コース構想
学長メッセージ

(<https://next20.soken.ac.jp>)



「総合研究大学院大学(SOKENDAI)特別研究員」 制度スタート

「総合研究大学院大学（SOKENDAI）特別研究員」制度は、わが国の将来の基礎研究・学術研究を担う人材を育成するため、総研大の5年一貫制博士課程3年次以上（博士後期課程相当）の学生を特別研究員として採用し、フェローシップ給付金の支給及び研究力の向上や研究者としてのキャリアパスの確保に向けた取組を本学の専攻を置く大学共同利用機関と緊密な連携及び協力の下に一体的に行うことを目的とした制度です。

総研大では、同制度により採用した学生に対し、フェローシップ給付金として、原則3年間にわたり、研究専念支援金及び研究費を支給します。

同制度は、文部科学省「科学技術イノベーション創出に向けた大学フェローシップ創設事業」の採択を受けて、同事業で採択された大規模先端科学、情報・AIの2分野の対象となった専攻の学生10名を

2021年4月より新たに採用し、スタートしたものです。（注：コロナ禍による来日の遅れから2021年4月から支給学生は9名）。

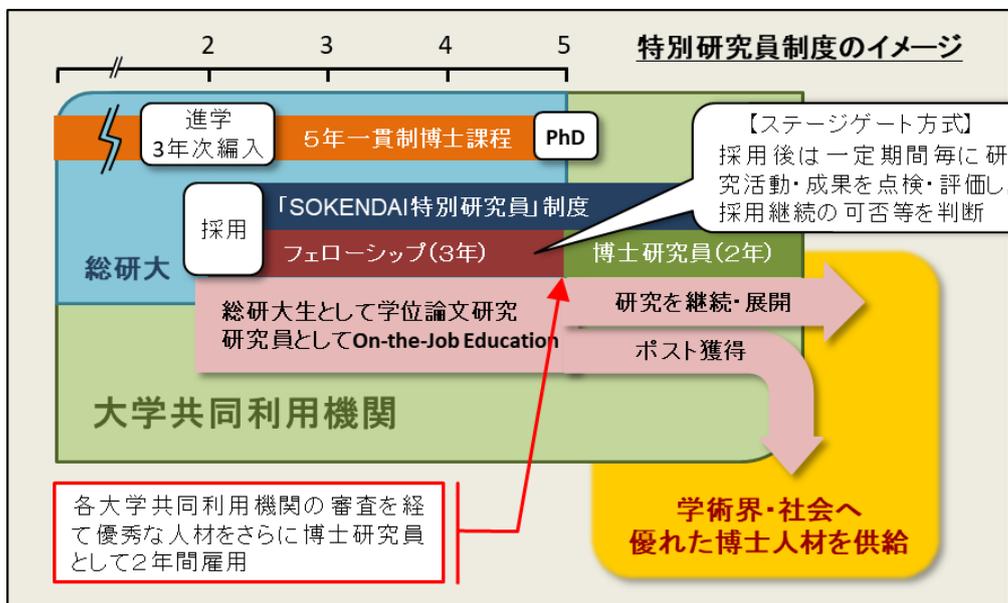
本学では、今後、同制度の拡充も含め、若手研究者のキャリアパスと学修支援の強化に取り組むこととしています。

URL:

https://www.soken.ac.jp/campuslife/tuition/sp_researcher/



【総合企画課】

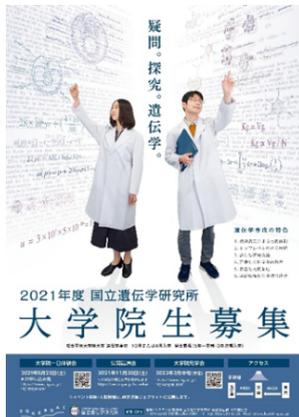


総合研究大学院大学（SOKENDAI）特別研究員制度のイメージ



遺伝学専攻

オンライン大学院一日体験会を開催



紹介、研究する喜び、遺伝研での研究生活についてなどのお話がありました。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため遺伝学専攻では、5月22日(土)にZoomを用いてオンラインで大学院一日体験会を開催しました。オンラインでおこなうことで参加者は41名に上りました。まずは花岡専攻長のご挨拶です。専攻長からは、遺伝研の紹介、



花岡専攻長による研究所・専攻紹介

専攻長のご挨拶の後は各研究室主宰者による「渾身の2分間」の研究室紹介です。遺伝研では多彩な研究室がモデル生物やデータベースを用いて、論理、実験の様々な手法による多様な研究がおこなわれているので研究室紹介は多彩です。

研究室紹介が終わったら「ブレイクアウトルーム」による研究室見学です。「渾身の2分間」の研究室紹介を聞いた参加者は、魅力を感じた研究室を訪問して、研究者と直接お話しします。参加者は研究者にいろいろなことについて活発に質問して有意義な時間を過ごしていたようです。

ブレイクアウトルームでいくつかの研究室を廻ったら、最後に遺伝学専攻の大学院生とのオンライン座談会です。大学院生を囲んで、大学院生活、三島での暮らしなどさまざまなことについて話が弾んでいたようです。参加者の皆様にはオンライン大学院一日体験会を通して、遺伝学専攻の優れた研究・教育環境、研究者、大学院生の熱意を感じ取ってもらえたことと思います。

【遺伝学専攻】

プログラム

PROGRAM

第一部

- 13:00-13:05 一日体験会概要説明
- 13:05-13:15 研究所・専攻の紹介
遺伝学専攻長 花岡 文雄
- 13:15-14:00 研究室紹介 (各研究室2分間)

第二部

- 14:00-15:40 研究室見学 (各セッション30分間、最大3研究室見学可能)
 - ・第1セッション 14:00-14:30
 - ・第2セッション 14:35-15:05
 - ・第3セッション 15:10-15:40
- 15:45-16:15 総研大生とのオンライン座談会 (希望者のみ)



宇宙科学専攻 「専攻説明会」開催

物理科学研究科宇宙科学専攻では、去る6月5日(土)に専攻説明会を行いました。これまで、この時期の説明会は当年の受験者を主な対象に、入試や進学後の研究生活の説明、また施設見学など進学を前

提とした内容を中心としていました。しかし、より早い時期(学部1~3年次)からの進学の動機付けが重要と考え、広く浅く専攻の研究を紹介する内容も加えて、企画を練り直しました。コロナ禍によりリ

モート開催となり、参加者の移動時間を考えなくても良くなったことも、プログラムの自由度を上げる結果となっています。

当日は 10:30 開始。午前中は専攻長からの専攻概要の説明に続き、5名の教員による分野別の研究概要の説明を行いました。昼食休憩を経て、午後は受験者を対象にした入試や学生サポート制度などの説明、また在 student や OB による体験談紹介の後、教員と参加者が直接話し合う進路相談の機会を設けました。十数名の教員が参加し、Zoom のブレイクアウトルーム機能を用いて分野別、教員別に分かれた小部屋に参加者と教員が自由に分散し、約 1 時間かけてより具体的な研究内容や進路、あるいは入試等に関する対話を行った。16:30 に説明会を終了して教員は退出し、その後は在 student と参加者による学生目線での懇談が続けられました。

今回の参加申込みはこれまでの 2 倍近い 63 件ありましたが、実際の参加は 47 名と、良くも悪くもリモート開催ならではの気軽さを反映していました。受験希望者、将来の進学希望者共に参加者の反応はおおむね好評で、特に教員との直接対話、学生との懇談会は、実際の研究生活を知ることが出来ると、好評でした。また、教員側からはより効果的な運営方法、より総研大の存在をアピールするための提案があり、今後に反映させていきます。

宇宙科学専攻では、今回の専攻説明会をさらに発展させる形で、8 月下旬に「夏の体験入学」を開催予定です。参加者と教員のより深い議論により、進学希望者の専攻への理解と意欲が高まることを期待しています。

【宇宙科学専攻】



JSPS サマー・プログラム 2021 オリエンテーションを初のオンライン開催

毎年夏に、JSPS と本学共催で、海外の若手研究者を日本に招聘する、JSPS サマープログラムを実施しています。昨年はコロナ禍で開催できませんでしたが、今年は、昨年度からの繰り越し参加者を含め、来日前のフェローを対象に、初めてオンラインでのオリエンテーションが実施されました。

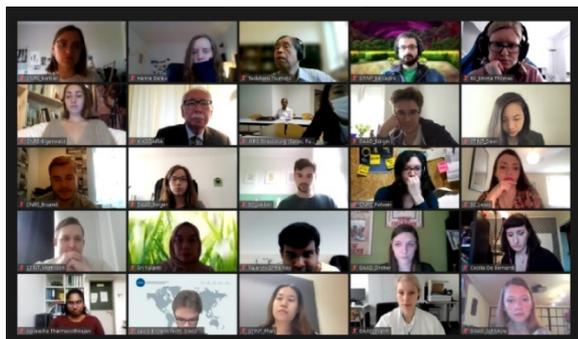
5 月 11 日、開講式にあたる「キックオフミーティング」が開催され、アメリカ、カナダ、イギリス、フランス、ドイツ、スウェーデンの各国から約 150 人のフェローが、ZOOM の会場に集結しました。葉山キャンパスの講堂は特設スタジオとなり、司会の眞山聡講師（教育開発センター）がビデオカメラ越しにフェローと対話しました。ミーティングには、長谷川学長や JSPS の家理事からのメッセージ動画や、来日前にオンラインで実施された日本語レッスンなどのプログラムの説明、過去に参加したフェローによるプレゼンテーション等がもりこまれました。参加したフェロー達は、チャットや音声で活発に質問をしたり、相互にコミュニケーションを取り合ったりするなど、来日を心待ちにしている様子でした。



葉山キャンパス講堂にグリーンバックを配した
即席のスタジオ



合成処理後にホストから見える画像



参加フェローおよび関係者
ミーティングは、時差の都合でアメリカ向けとヨーロッパ向けの2回開催

フェローは8月末までにオンラインでのオリエンテーションをすべて終え、今後、来年3月末までの各自事情のゆるす時期を選んで来日し、約2か月間、日本の受け入れ研究機関で研究を進める予定です。

【広報社会連携係】



総合研究大学院大学職員が第63次南極観測隊員に決定

2021年6月30日(水)に開催された第158回南極地域観測統合推進本部において、第63次南極地域観測の隊員65名及び同行者5名が決定されました。本学職員の馬場健太郎さんも、庶務・情報発信

担当として選抜されました。今年11月に昭和基地に向け出発を予定しています。

【広報社会連携係】

Awards

■ 物質構造科学専攻 三木 宏美 (D4) Nestlé Young Scientist Award を受賞

7月12日～14日にオンラインで開催された国際会議、6th International Conference on Food Oral Processing (第6回食品の口腔内処理に関する国際会議、https://congresos.adeituv.es/FOP_2020/ficha.en.html)において、物質構造科学専攻の三木 宏美さんがNestlé Young Scientist Awardを受賞しました。この国際会議は、歯科医学や栄養学、心理学、食品科学など口腔の活動や知覚、栄養や代謝、生理学や食品構造に関する分野を包括している、非常に学際的な学会です。

三木さんは、歯科医師のキャリアを持ちながら、他分野(物質構造科学)の博士課程で研究をしてい

ることと、放射光イメージングと介護食品の組み合わせの新規性が評価され、受賞となりました。

<https://www.soken.ac.jp/news/7095/>



■ 天文科学専攻 教員 2 名が令和 3 年度 科学技術分野の文部科学大臣表彰 受賞

文部科学省は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者を「科学技術分野の文部科学大臣表彰」として顕彰しており、2021 年 4 月、本学教員 2 名が「科学技術賞」（理解増進部門）、「若手科学者賞」を受賞しました。

<https://www.soken.ac.jp/news/6991/>



受賞	所属・役職	氏名	業績名
科学技術賞 (理解増進部門)	天文科学専攻 准教授	田中 賢幸	すばる望遠鏡ビッグデータを用いた市民参加型研究の普及啓発
若手科学者賞	天文科学専攻 准教授	小嶋 崇文	電波天文用受信機の高感度化および広帯域化に関する研究

■ 地域文化学専攻、比較文化学専攻 教員 3 名が大同生命地域研究奨励賞 受賞

公益財団法人 大同生命国際文化基金では、地域研究の発展を通じて国際相互理解の促進に資するため、大同生命地域研究賞を設けており、本学教員 3 名が第 36 回(2021 年度)「大同生命地域研究奨励賞」を受賞しました。

<https://www.daido-life-fd.or.jp/>



所属・役職	氏名	業績名
比較文化学専攻 准教授	上羽 陽子	現代インドにおける染織文化の変容動態の研究
地域文化学専攻 准教授	小野 林太郎	東南アジア海域における海産資源利用の人類・考古学的研究
地域文化学専攻 准教授	川瀬 慈	民族誌映画の革新的制作を通じたアフリカ地域研究の新分野開拓

■ 国際日本研究専攻 修了生 西田 彰一 第 15 回日本思想史学会 奨励賞 受賞

国際日本研究専攻の修了生、西田彰一さんが、第 15 回日本思想史学会奨励賞を受賞しました。

【受賞作品】

『躍動する「国体」—— 筧克彦の思想と活動』
(ミネルヴァ書房, 2020 年)

【選考理由】

大正期から昭和戦前期にかけて国体論者として活躍した憲法学者、筧克彦に関して、その生涯と著作を包括的に検討した、現在の研究の到達点を示す力作である。著者は、筧の提唱した国体論・「古神道」論が、大正期のデモクラシーの進展に対抗するために、仏教研究への沈潜をへて国体論に宗教を導入することで、国家を「共感の共同体」として再構成しようとする試みであったと位置づける。

思想形成の内在的な分析に加えて、さらに算の実践活動についても綿密に調査したところに本書の特色がある。皇族や政治家への働きかけとともに、「やまとばたらき」と呼ばれる体操や、御誓文を刻んだ「誓の御柱」の建設運動など、大衆にむけた普及活動、さらに神社行政・植民地政策との関わりを明らかにした。当時における思想と社会との関係について、多方面からの検討を重ねた分厚い思想史叙述と言える。

http://ajih.jp/shoureishou/15_syoureisyo.html



■ 第10回自然科学研究機構若手研究者賞受賞

自然科学研究機構では、新しい自然科学分野の創成に熱心に取り組み成果をあげた優秀な若手研究者を対象として「自然科学研究機構若手研究者賞」を授与しています。第10回は下表の5名が受賞しました。

<https://www.nins.jp/site/connection/10wakate.html>



受賞者	受賞の対象となった研究業績
レオナルディ マテオ 天文学専攻 助教	重力波望遠鏡高感度化のための周波数依存スキージング技術開発
河村 学思 核融合科学専攻 助教	核融合装置における周辺プラズマの3次元輸送モデル研究
キム ウンチュル 基礎生物学専攻 助教	光合成生物の集光システムにおける調節機構の研究
矢木 真穂 機能分子科学専攻 助教	アミロイド形成タンパク質の分子集合機構
小林 俊寛 生理学研究所 助教	多能性幹細胞を用いた初期胚発生の理解とその臓器再生への応用

■ 機能分子科学専攻 谷中冴子 助教 令和3年度日本薬学会物理系薬学部会奨励賞

生命・錯体分子科学研究領域の谷中冴子助教が「抗体の3次元構造と相互作用のダイナミクスを解明する方法の開発と抗体の高機能化への展開」の業績で令和3年度 日本薬学会 物理系薬学部会奨励賞を受賞しました。

<https://www.ims.ac.jp/news/2021/06/0617.html>



■ 構造分子科学専攻 小杉貴洋 助教 日本蛋白質科学会若手奨励賞優秀賞を受賞

協奏分子システム研究センターの小杉貴洋助教が日本蛋白質科学会若手奨励賞を受賞し、6月17日に行われた第21回日本蛋白質科学会年会若手奨励賞シンポジウムで「失われた機能を蘇らせることで回転分子モーターV1-ATPaseにアロステリック部位を設計する」と題した講演を行いました。講演の結果、若手奨励賞優秀賞に選出されました。

<https://www.ims.ac.jp/news/2021/07/070221.html>



■ 機能分子科学専攻 伊澤誠一郎 助教 有機EL討論会第31回例会講演奨励賞を受賞

物質分子科学研究領域の伊澤誠一郎助教が「有機半導体界面でのスピン反転を介した新原理フォトンアップコンバージョン」の業績（演題）で有機EL討論会第31回例会講演奨励賞を受賞しました。

https://www.ims.ac.jp/news/2021/05/el31_1.html



■ 基礎生物学専攻 安藤俊哉 助教 2021年度日本動物学会奨励賞を受賞

進化発生研究部門の安藤俊哉助教が2021年度の日本動物学会奨励賞を受賞しました。受賞対象の研究テーマは「マクロスケールからミクロスケールまでの昆虫の機能的形態の形成機構の研究」です。9月に開催される第92回大会にて、授賞式および受賞者講演が行われる予定です。

<https://www.nibb.ac.jp/pressroom/news/2021/07/14.html>



Press Release

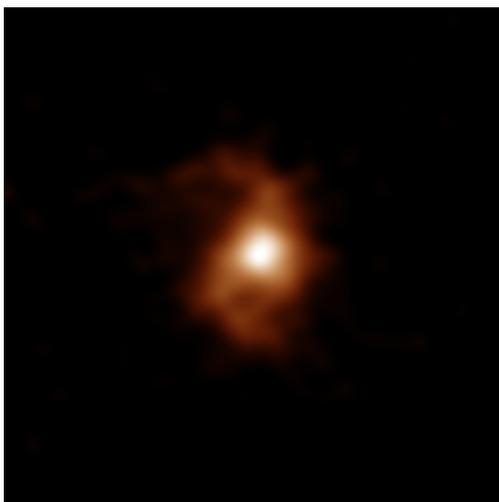
2021.05.21

観測史上最古、124 億年前の宇宙に渦巻き構造を持つ銀河を発見

Tsukui^{1,2} & S. Iguchi^{1,2}

1 Department of Astronomical Science, The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI

2 National Astronomical Observatory of Japan, National Institute of Natural Sciences



アルマ望遠鏡が観測した、124 億年前の銀河 BRI 1335-0417。銀河に含まれる炭素イオンが放つ電波を観測した画像です。中心部の明るい部分の上下に、渦巻き構造が見えています。

Credit: ALMA (ESO/NAOJ/NRAO), T. Tsukui & S. Iguchi Composition by J. C. Algaba

【研究概要】

総合研究大学院大学の大学院生 津久井崇史氏と国立天文台/総合研究大学院大学の井口聖教授は、アルマ望遠鏡の観測データの中から、観測史上最古の渦巻き構造を持つ銀河を 124 億年前の宇宙に発見しました。これは、ビッグバンから 14 億年後の時代に相当します。今回観測された BRI 1335-0417 と呼ばれる銀河は、私たちが住む渦巻銀河である天の川銀河の 1/3 ほどの大きさを持っていました。宇宙の歴史の中でこれほど早い時代にしっかりした渦巻き構造を持つ銀河を発見できたという観測結果は、「銀河の形はどのように決まるのか」、「銀河の渦巻き構造がいつどのようにできあがったのか」という天文学の古典的な疑問を解く糸口を与えてくれる可能性があります。

【論文情報】

- ・ 掲載誌：Science
- ・ 掲載日：2021 年 5 月 20 日
- ・ 論文タイトル：Spiral morphology in an intensely star-forming disk galaxy more than 12 billion years ago
- ・ 著者：津久井 崇史（総合研究大学院大学 大学院生）、井口 聖（国立天文台/総合研究大学院大学 教授）
- ・ DOI: 10.1126/science.abe9680

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7037/>

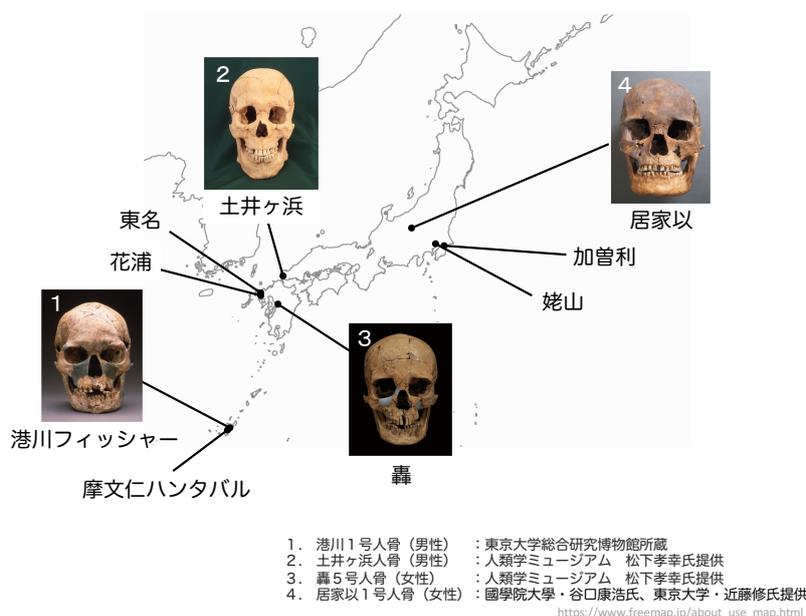


2021.06.16

港川1号人骨のミトコンドリア DNA の解析で過去から現在までの日本列島人の遺伝的関係性を解明

Fuzuki Mizuno¹, Jun Gojobori², Masahiko Kumagai³, Hisao Baba⁴, Yasuhiro Taniguchi⁵, Osamu Kondo⁶, Masami Matsushita⁷, Takayuki Matsushita⁷, Fumihiko Matsuda⁸, Koichiro Higasa⁹, Michiko Hayashi¹, Li Wang¹⁰, Kunihiko Kurosaki¹, and Shintaroh Ueda^{1,6}

1 Toho University School of Medicine. 2 The Graduate University for Advanced Studies, SOKENDAI. 3 National Agriculture and Food Research Organization. 4 National Museum of Nature and Science. 5 Kokugakuin University. 6 The University of Tokyo. 7 The Organization of Anthropological Research. 8 Kyoto University. 9 Kansai Medical University. 10 Hangzhou Normal University.



本研究で mtDNA の全長配列を決めた人骨が出土している遺跡の地図上の位置といくつかの人骨の頭蓋骨

【研究概要】

本研究では、日本列島において人骨の出土数の少ない旧石器時代の遺跡の一つである港川フィッシャー遺跡の港川1号人骨の mtDNA の配列の決定に成功しました。新たに決定した縄文時代、弥生時代の人骨の mtDNA と現代日本列島人集団約 2,000 人の mtDNA と合わせて解析を行ったところ、1) 港川1号人骨は縄文、弥生、現代の集団の直接の祖先ではないが、2) 港川1号人骨の mtDNA は現代日本列島人集団の祖先のグループに含まれるか非常に近いものだということがわかりました。その結果、日本列島では旧石器時代から現代に至るまでヒト集団に遺伝的に連続性があることが示唆されました。

【論文情報】

- 掲載誌：Scientific Reports（オープンアクセス）
- 掲載日：2021年6月13日
- 論文タイトル：Population dynamics in the Japanese Archipelago since the Pleistocene revealed by the complete mitochondrial genome sequences
- 著者：水野 文月（東邦大学医学部法医学講座 助教）、五條堀 淳（総合研究大学院大学先端科学研究科 講師）、熊谷 真彦（農業・食品産業技術総合研究機構高度分析研究センター 主任研究員）、馬場 悠男（国立科学博物館 名誉研究員）、谷口 康浩（國學院大學文学部 教授）近藤 修（東京大学大学院理学系研究科 准教

授)、松下 真実(特定非営利活動法人 人類学
研究機構 調査・研究課 課長)、松下 孝幸
(土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム 館
長)、松田 文彦(京都大学大学院医学研究科
教授)、日笠 幸一郎(関西医科大学附属生命医
学研究所 学長特命教授)、林 美千子(東邦大
学医学部法医学講座 技術専門員)、王 瀝(杭
州師範大学医学部 教授)、黒崎 久仁彦(東邦

大学医学部法医学講座 教授)、植田 信太郎
(東京大学 名誉教授・東邦大学医学部 客員
教授)

・ DOI: 10.1038/s41598-021-91357-2

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7054/index.html>



研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム、研究論文助成事業に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

<https://www.soken.ac.jp/education/rintro/ri-grantedstd/>



■新規掲載情報

事業種別	専攻・氏名	タイトル
国際共同学位 プログラム	宇宙科学専攻 小野寺圭祐	Participation in NASA's InSight mission ~Seismological Investigation of Mars~
研究派遣 プログラム	素粒子原子核専攻 瀬川優子	宇宙の始まりを見る POLARBEAR-2 望遠鏡
研究論文助成	天文科学専攻 竹村英晃	野辺山 45m 電波望遠鏡で探るオリオン A 分子雲の星の"たまご"
研究論文助成	天文科学専攻 竹村英晃	星の"たまご"は"食事"をするのか?

Media

■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】没後 25 年に遠藤周作を読む

【掲載】国際日本研究専攻 増田 斎 (学生)

【日時】2021 年 5 月 7 日 (金)

■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】日本人の忘れもの知恵会議にて、暮らしと文化の役割について

【掲載】比較文化学専攻 廣瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年5月14日（金）

（参考）https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc_wise/forum/forum_2104.html

■ KAI-YOU

【記事タイトル】

6月4日「モンハンライズ」現実で狩るのが大変なモンスターは？実際のハンターに聞いてみた

6月5日「ネコのお供は考えさせられた」狩りのプロも唸るモンハンライズの世界

【掲載】地域文化学専攻 池谷 和信 教授

【日時】2021年6月4日（金）、5日（土）

【URL】<https://kai-you.net/article/80507> / <https://kai-you.net/article/80523>

■ 朝日新聞 朝刊

【記事タイトル】もっと教えてドラえもんにて、世界中に「目」のお守りなぜ？

【掲載】比較文化学専攻 菅瀬 晶子 准教授

【日時】2021年6月6日（日）

■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】日本人の忘れもの知恵会議にて、他者理解の先にあるもの

【掲載】比較文化学専攻 廣瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年6月8日（火）

【URL】https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc_wise/conversation/conv_2106.html

■ 毎日新聞 朝刊

【記事タイトル】オピニオン—メディア—にて、パラリンピック報道について

【掲載】比較文化学専攻 廣瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年6月28日（月）

■ 毎日新聞 朝刊

【記事タイトル】オピニオン 論点にて、「オリ・パラ」の「・」を取りたい

【掲載】比較文化学専攻 廣瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年7月2日（金）

■ 京都新聞 朝刊

【記事タイトル】日本人の忘れもの知恵会議にて、スポーツの楽しみ

【掲載】比較文化学専攻 廣瀬 浩二郎 准教授

【日時】2021年7月6日（火）

【URL】https://pr.kyoto-np.jp/campaign/nwc_wise/conversation/conv_2107.html

■ ゲンロンカフェ

【記事タイトル】モンゴルについてのお話とヒップホップのローカル化について

【掲載】地域文化学専攻 島村 一平 准教授

【日時】2021年7月16日（火）

【URL】<https://genron-cafe.jp/event/20210716/>

■ 日本進化学会ニュース Vol.22No.2

【書籍タイトル】①葉山で進化生物学 ②東南アジアの島国から伝える、研究者だより

【掲載】①生命共生体進化学専攻 清古 貴（学生） ②シンガポール南洋理工大学 Hie Lim Kim（修了生）

【日時】2021年6月

■ 静岡新聞

【記事タイトル】 地方創生のために

【掲載】 長谷川 真理子 学長

【日時】 2021年7月18日（日）

Event Calendar

日程	イベント名称	実施専攻・基盤機関
2021/8/2-9/30	2021 年度国立天文台・総研大 サマースチューデントプログラム（夏の体験研究） https://guas-astronomy.jp/ss.html	天文科学専攻 国立天文台
2021/9/2-11/30	特別展「ユニバーサル・ミュージアム ― さわる！ “触”の大博覧会」 https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/16854	国立民族学博物館
2021/9/16、 17、21、22、24	電波/干渉計サマースクール 2021 http://alma-sci.nao.ac.jp/SummerSchool2021/	天文科学専攻 国立天文台
2021/10/2	日本文学研究専攻 オープンキャンパス https://www.nijl.ac.jp/activity/education/soken/seminar.html	日本文学研究専攻 国文学研究資料館
2021/10/17	日本歴史専攻 大学院説明会 https://www.rekihaku.ac.jp/education_research/education/graduate_school/soukendai/admission/briefing.html	日本歴史研究専攻
2021/10/20	国際日本研究専攻 入試説明会 ※オンライン https://www.nichibun.ac.jp/pc1/ja/education/graduate_s.html	国際日本研究専攻
2021/10/23	分子科学研究所 一般公開 ※オンライン https://www.ims.ac.jp/koukai2021/	分子科学研究所
2021/10/28- 2022/1/25	企画展「躍動するインド世界の布」 https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/19274	国立民族学博物館
2021/11/13	後期専攻説明会 ※オンライン http://www.esb.soken.ac.jp/admissions/briefing_detail.html	生命共生体進化学専攻

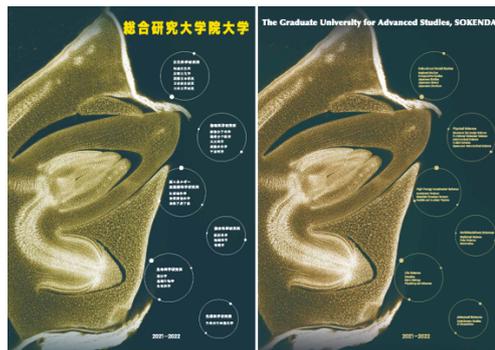
※原則として、総研大専攻としての行事のみを掲載します。

■ お知らせ

大学要覧 2021 年度版（日・英）を発行しました。以下のページより PDF 版がダウンロード可能です。ご査収ください。

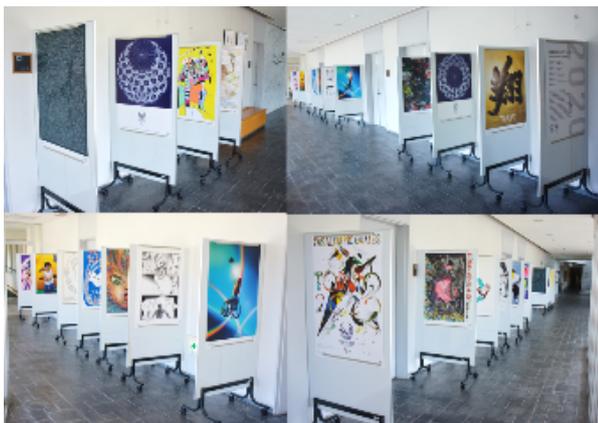
また、冊子をご希望の場合は広報社会連携係までメールにてご連絡ください。

<https://www.soken.ac.jp/news/6703/>



■ 編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大により 1 年間延期されたオリンピック・パラリンピックが、今年 7 月に開幕し、9 月に終わりました。本学ロビーにも、



「東京 2020 公式アートポスター」20 作品が展示されました。

緊急事態宣言下での無観客五輪という状況をどのように受け止めるべきなのか、複雑な気持ちでアスリートの活躍を見ていた方も多かったのではないのでしょうか。

まだまだ新型コロナウイルス感染症に終息の兆しは見えませんが、皆様が健康で、平穏な日々を過ごされていることをお祈りいたします。

[参考] オリンピック 7/23 開会式～8/8 閉会式
パラリンピック 8/24 開会式～9/5 閉会式

(広報社会連携係 T.S.)

総研大基金によるご支援について

令和2年度4月、本学は戦略的な運営を支える財政基盤を強化すべく、総研大基金を創設しました。この基金を活用して、国際交流の支援、学生支援等を推進して参ります。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2021年9月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2021 SOKENDAI